

1 業務の目的と概要

■業務の目的

○京都府丹後地域の天橋立・伊根エリアにおいて、観光客（特にインバウンド）の急増によるオーバーツーリズム問題が深刻化しつつある。
○本業務は、オーバーツーリズム未然防止対策として2024年度内に実施する様々な実証実験の効果検証のために調査・分析を行い、次年度以降の本格実施に向けた基礎資料を得ることを目的とする。

■業務の概要

○天橋立・伊根オーバーツーリズム未然防止対策として実施した事業・実証実験の施策、効果計測方法は下表のとおりである。

表. オーバーツーリズム未然防止対策の実証実験と効果計測についての整理

実証実験の事業・施策		実施期間	解決すべき問題点	効果の発現を意味する指標	効果計測方法
①伊根町内一方通行社会実験事業		7月～12月の3連休	・伊根浦地区の道路で渋滞が発生 ・伊根浦地区内に不案内な自動車流入による交通事故が発生	・交差点交通量の減少 ・渋滞発生回数の減少、渋滞長の短縮 ・交通事故の減少	・平田交差点付近における交通量及び渋滞長調査（常設カメラによるビデオ撮影）
②伊根町P＆R事業		6/1～12/1 土日祝日	・伊根浦地区で駐車場を探して行き来する車により交通量が増加 ・伊根浦地区の道路で渋滞が発生 ・伊根浦地区内に不案内な自動車流入による交通事故が発生	・交差点交通量の減少 ・渋滞発生回数の減少、渋滞長の短縮 ・交通事故の減少 ・伊根浦地区内の駐車場の混雑緩和	・P＆Rバス利用状況（人数）調査 ・P＆R利用者アンケート調査
③天橋立伊根交通分散事業	伊根航路実証運航	7/20～9/29 土日祝日	・天橋立と伊根を結ぶ路線バスに観光客（特にインバウンド）が集中し、積み残しや地元住民が乗車できない事象が発生	・沿線住民が路線バスに乗車できない状況の緩和 ・路線バス車内へのスーツケース持ち込み減少による車内混雑の緩和	・航路利用状況（人数）調査 ・伊根航路利用者アンケート調査 ・路線バス利用者アンケート調査（インバウンド対象）
	天橋立－伊根航路代替直通バス実証運行	10/1～12/1 毎日			・代替直通バス利用状況（人数）調査 ・航路代替直通バス利用者アンケート調査 ・路線バス利用者アンケート調査（インバウンド対象） ・伊根バス停における路線バスの積み残し発生状況調査（常設カメラによるビデオ撮影） ・路線バスの続行便の運行回数
	京都－夕日ヶ浦高速バス実証運行	8/23～12/1 毎日			・高速バス利用状況（人数）調査 ・京都－夕日ヶ浦間高速バス利用者アンケート調査
	伊根－夕日ヶ浦定期観光バス実証運行	8/24～12/1 土日祝日			・定期観光バス利用状況（人数）調査 ・伊根－夕日ヶ浦間観光バス利用者アンケート調査
④天橋立手ぶら観光実証事業	天橋立・伊根の宿泊施設へ手荷物移送及び一時預かりサービス	7/20～10/27 土日祝日 11/1～12/1 毎日	・大きな荷物を持って公共交通を利用するインバウンドが多く、バス等の混雑が発生	・路線バスの混雑緩和	・手荷物移送及び一時預かりサービス利用状況調査

一方通行実施中にも関わらず逆方向に走行する車両が出現

平田交差点北方向まで車列が連続

2 伊根町内一方通行社会実験事業の効果検証

■平田交差点付近における交通量及び渋滞長調査

○調査方法
・伊根浦地区平田交差点付近にカメラを設置して連続的に撮影し、交通量や渋滞発生状況を把握。
○調査期間
・2024年（令和6年）11月1日（金）、3日（日・祝）各日9時～19時
○調査結果の概要（現状把握）
・交差点北側の最大流入交通量 11/1:33台/時 11/3:112台/時(いずれも14～15時がピーク)
・観光協会前の最大渋滞長 11/1:10m(12時前後に発生) 11/3:230m以上(12時40分～13時20分ほか複数回発生) ※観光協会東側交差点の停止線を始点に、渋滞の車列が平田交差点北方向まで連続。
・映像から推測する主な発生原因は、多数の観光客の歩行による車両の停止や、一方通行にも関わらず観光協会南東交差点の南方向から対向車がありスムーズな離合の困難による滞留。



図. カメラ設置箇所



写真. カメラAからの画像



写真. カメラBからの画像

■ P & Rバス利用状況（人数）調査

- 調査期間
 - ・2024年（令和6年）6月1日～12月1日の土日祝日 ※実証実験期間と同じ
- 調査方法
 - ・P & R無料バスのドライバーが利用者数をカウント
- 調査結果の概要
 - ・無料バスは、8月に多くの利用があったものの、9月以降急減。
 - ・9月以降は、無料駐車場の利用台数に比してバス利用者が減少し、また渋滞も多く確認された。
 - ・便別にみると、往路は初発と正午前後の便の利用が多く、復路は駐車場まで徒歩で戻った人が多いほか、バスの利用は15時前後の便が多い。

表. P & R実証運行バスの利用実績

	利用者数(人)	アンケート回答者数(人)	運行回数(回)	運行日数(日)	常設駐車場の駐車台数(代)	備考
6月	36	17	110	10	2,064	大雨、雷のため運休便あり
7月	19	7	99	9	2,455	
8月	80	6	77	7	2,194	中止3日（11日,24日,31日）
9月	22	10	110	10	2,966	中止1日（1日）
10月	28	25	66	6	1,434	中止3日（6日,12日,27日）
11月	29	3	99	9	2,160	12/1含む。中止2日（3日,9日）
合計	214	68	561	51	13,273	平均4.2人/日

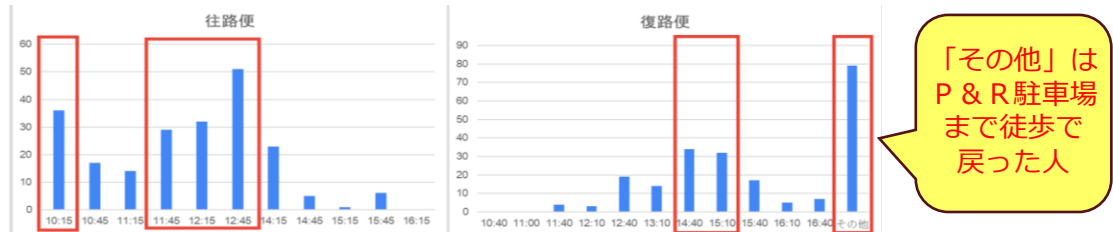


図. P & Rバスの便別利用者数

■ P & R利用者アンケート調査

- 調査期間
 - ・P & Rバス利用状況調査と同じ。
- 調査方法
 - ・P & R駐車場（伊根町役場）にて、利用者にWebアンケートのQRコードを配布。
 - ・回答者にはインセンティブ提供。
- 回答総数 68件（総利用者数に対する回答率32%）
- 主な設問
 - ・回答者属性や当日の旅行行動（居住地、前日滞在地、宿泊地、伊根を何で知ったかなど）
 - ・P & Rについて（P & Rを何で知ったか、P & Rの感想・意見など）
- 調査結果の概要
 - ・P & Rを何で知ったかについては、半数弱が「伊根に来て看板を見て知った」、次いで「HPで知った」が多い。
 - ・P & Rを利用した感想は、「駐車場無料が良かった」、「駐車場を探さずに済んだ」、「現地でスムーズに移動できた」、「狭い道の運転が苦手なので助かった」など肯定的な意見が大半である。

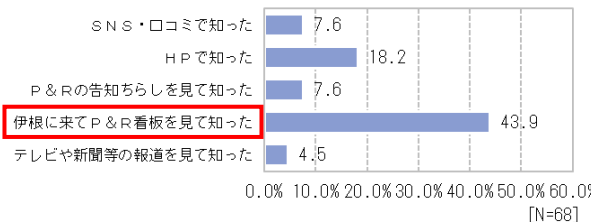


図. P & Rを何で知ったか

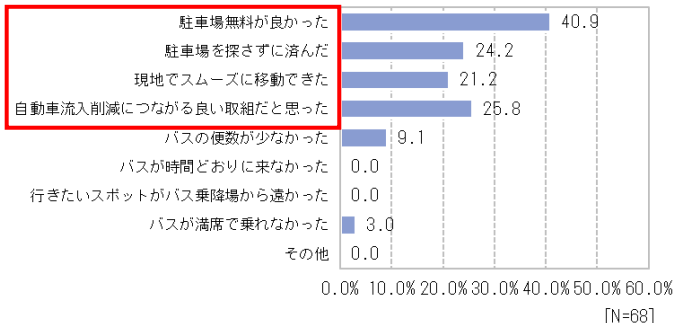


図. P & Rを利用した感想(複数回答)

■伊根航路利用人数調査

- 調査期間（実証運航期間）
 - ・2024年（令和6年）7月20日～9月29日の土日祝日 ※天候不順による欠航があり計17日運航
- 調査方法
 - ・伊根航路の乗船場における乗船券発売状況をカウント。
- 調査結果の概要
 - ・天橋立→伊根方向便の利用が逆方向より多く、総利用者の半数近くは①便の利用者。
 - ・7月より8月、8月より9月と、運航の周知が進むに連れ1便あたりの利用者が増加傾向。

表. 伊根航路実証運行の利用実績

	①			②			③			④		
月(運航日数)	宮津10:05	天橋立10:15	合計	宮津14:35	天橋立14:45	合計	日出11:00	伊根11:10	合計	日出15:30	伊根15:40	合計
7月(4)	8	27	35	7	13	20	8	27	35	10	8	18
8月(8)	33	64	97	12	35	47	15	13	28	24	37	61
9月(5)	30	60	90	4	10	14	9	2	11	23	30	53
乗船場別	71人	151人	222人	23人	58人	81人	28人	15人	43人	57人	75人	132人
	15%	32%	46%	5%	12%	17%	6%	3%	9%	12%	16%	28%
便別	222人			81人			43人			132人		
	46%			17%			9%			28%		
行先別	303人						175人					
	63%						37%					
総合計	478人											
1便平均利用者数	13.1人			4.8人			2.5人			7.8人		
	8.9人						5.1人					
	7.0人											

■伊根航路利用者アンケート調査

- 調査期間
 - ・実証運航期間と同じ。
- 調査方法
 - ・伊根航路の船内に、利用者WebアンケートのPRとQRコードを掲示し協力を呼びかけ。
 - ・回答者にはインセンティブ提供。
- 回答総数 32件（総利用者数に対する回答率7%）
- 主な設問
 - ・利用者属性や当日の旅行行動（居住地、前日滞在地、宿泊地、利用した便、乗下船港など）
 - ・航路の感想（乗船港へのアクセス、便数、運賃、快適性）
 - ・航路を何で知ったか、利用した理由、航路がなかった場合の天橋立～伊根間の移動手段など。
- 調査結果の概要
 - ・航路を利用した理由の9割弱は「船での移動に魅力があるから」であり、路線バスの代替手段として航路を利用した人は非常に少ない。
 - ・航路がなかった場合の移動手段は「路線バス」が約3分の2。また「マイカー」と回答したうちの8割強（7名中6名）は海の京都エリアまで「マイカー」で来訪しており、航路の運行が伊根へのマイカー乗り入れの削減にも少なからず寄与する可能性がある。

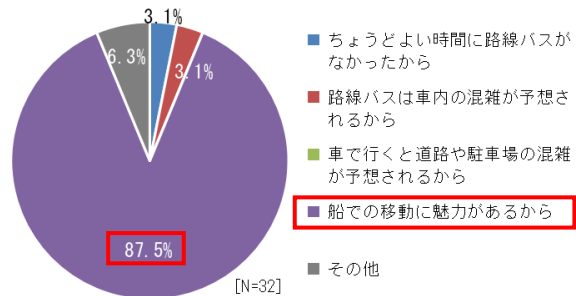


図. 航路を利用した理由

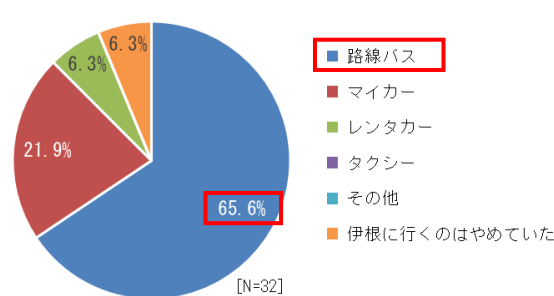


図. 航路がなかった場合の移動手段

■航路代替直通バス利用者アンケート調査

- 調査期間（実証運行期間）
 - ・2024年（令和6年）10月1日～12月1日の毎日
- 調査方法
 - ・車内に利用者向けWebアンケートのQRコードを掲示。回答者にはインセンティブ提供。

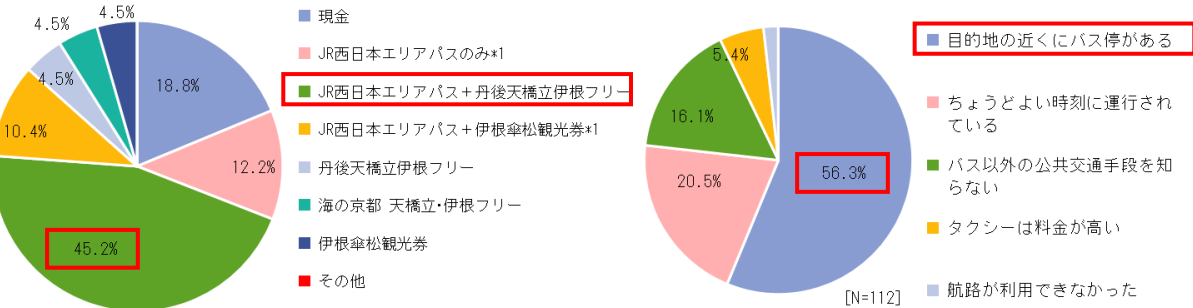
- 主な設問
- ・利用者属性や当日の旅行行動（居住地、前日滞在地、宿泊地、利用した便、乗降バス停など）
 - ・バスの感想（乗車場所へのアクセス、便数、経由する観光施設、運賃、快適性）
 - ・バスを何で知ったか、利用した理由、バスがなかった場合の天橋立－伊根間の移動手段など。
- 調査結果の概要
- ・実証運行期間を通して利用者が非常に少なく、利用者アンケートの回答も0件。
 - ・インバウンドのニーズに対し、実証運行の施策がミスマッチであったことが原因。
 - ・次年度は運行形態（ダイヤ、経由地、運賃等）の抜本的見直し及びアンケート実施方法の再検討が必要。

表. 天橋立－伊根航路代替直通バス運行の利用実績

	1 0 月	1 1 月	1 2 月	合計	乗車数／便
午前便	16	13	3	32	0.52
午後便	10	9	6	25	0.40
合計	26	22	9	57	0.92

■路線バス利用者アンケート調査（インバウンド対象）

- 調査期間
- ・2024年（令和6年）7月20日～12月31日の毎日
- 調査方法
- ・天橋立駅バス停及び天橋立－伊根間の路線バス車内に、インバウンド利用者向けWe bアンケートのP RとQ Rコードを掲示し協力を呼びかけ。回答者にはインセンティブ提供。
- 回答総数 118件（回答率はインバウンド乗客の総数不明のため算出不可）
- 主な設問
- ・利用者属性や当日の行動（国籍、乗降バス停、運賃支払い方法、バス以外の移動手段など）
- 調査結果の概要
- ・運賃の支払い方法は、J R西日本エリアパス＋丹後天橋立伊根フリー乗車船券という回答が半数弱であるほか、全体の76％がJ R西日本エリアパスを利用。現金での利用者は2割弱。
 - ・路線バスの利用理由の半数強が「目的地の近くにバス停がある」、次いで「ちょうどよい時刻に運行されている」が約2割、「バス以外の公共交通手段を知らない」が2割弱。



■伊根バス停における路線バスの積み残し発生状況調査

- 調査期間
- ・2024年（令和6年）11月1日（金）、3日（日・祝）各日9時～19時
- 調査方法
- ・路線バス伊根バス停（天橋立方面行き乗り場）付近にカメラを設置して連続的に撮影し、バスの乗降状況、特に積み残しの発生状況を把握
 - ※「前掲の、2 平田交差点付近における交通量及び渋滞長調査」の撮影結果を使用
- 調査結果の概要…乗車人数が10名以上の便
- ・11/1 13:05発便：28名 13:33発便：16名 14:42発便：28名 16:20発便：21名
 - ・11/3 13:05発便：27名 13:33発便：17名 14:42発便：34名 15:08発便：12名 16:20発便：28名 16:53発便：10名
- ・調査日には積み残しが発生しなかったが、11月中～下旬に積み残しが多数発生し続行便を運行した実績がある。

（丹後海陸交通㈱調べ）

表. 11/12～12/20の伊根線・蒲入線における続行便運行日(左)及び便数(右)

日	月	火	水	木	金	土	
11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16	2便運行 ①13:02天橋立駅➡舟屋の里伊根まで ②14:42伊根➡杉の末まで
		2便	2便	2便	4便	-	3便運行 ①17:23元伊勢龍神社➡天橋立駅 ②13:05伊根➡杉の末まで ③15:08伊根➡杉の末まで
11/17	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22	11/23	4便運行 ①11:41天橋立駅➡舟屋の里伊根まで ②13:02天橋立駅➡舟屋の里伊根まで ③14:42伊根➡杉の末まで ④16:20伊根➡杉の末まで
-	4便	4便	4便	4便	4便	3便	5便運行 ①9:59天橋立駅➡舟屋の里伊根まで ②10:56天橋立駅➡舟屋の里伊根まで ③13:33伊根➡杉の末まで ④16:20伊根➡杉の末まで ⑤16:53伊根➡杉の末まで
11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	11/30	
3便	4便	4便	4便	4便	4便	5便	
12/1	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6	12/7	
5便	4便	4便	4便	4便	4便	5便	
12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/14	
5便	4便	4便	4便	4便	4便	天候不良 運行なし	
12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	12/21	
5便	4便	4便	4便	4便	4便	-	

■京都－夕日ヶ浦高速バス利用者アンケート調査

- 調査期間
- ・2024年（令和6年）8月23日～12月1日の毎日 ※実証実験期間と同じ
- 調査方法
- ・バス車内に、利用者We bアンケートのQ Rコードを掲示。回答者にはインセンティブ提供
- 主な設問
- ・利用者属性や当日の行動（利用目的、チケット購入、乗降バス停、乗車前後の出発・目的地など）
 - ・利用した感想（便数、出発時刻、運賃）、経路への意見（天橋立等不通過、マイン経由等）
 - ・「ネット割」等の認知度、このバスがなかった場合の代替手段、今後の利用意向など
- 調査結果の概要
- ・利用目的は、「旅行・観光」と「帰省」がそれぞれ4割前後、次いで1割強の「出張・業務」の3つでほぼすべてを占める。
 - ・このバスがなかった場合の移動手段（京都発便の場合）は、「J R利用」が約6割、「既存の高速バス利用」が2割で、「目的地を変更した」及び「移動（旅行）そのものを取りやめた」は少ないが、これらを回答した人の利用目的はほとんど「旅行・観光」。

表. 京都－夕日ヶ浦間高速バス実証運行の利用実績

006便 夕日公園前9：40→京都駅 (単位:人)									
【乗車】	8月	9月	10月	11月	12月	計	バス停別 占有率	地域別 占有率	
夕日公園前	6	21	42	54	2	125	25.5%		
夕日ヶ浦木津温泉駅前	2	21	11	22	1	57	11.6%		
網野駅	5	21	13	45	3	87	17.7%	54.8%	
丹海峰山車庫	5	36	33	39	2	115	23.4%		
マイン前	11	34	24	37	1	107	21.8%	45.2%	
計	29	133	123	197	9	491	100.0%	100.0%	
【降車】									
高速長岡京	3	19	26	30	1	79	16.1%		
京都駅	26	114	97	167	8	412	83.9%		
計	29	133	123	197	9	491	100.0%		

106便 京都駅13：50→夕日公園前 (単位:人)									
【乗車】	8月	9月	10月	11月	12月	計	バス停別 占有率	地域別 占有率	
高速長岡京	8	27	18	17	1	71	13.9%		
京都駅	28	131	122	157	2	440	86.1%		
計	36	158	140	174	3	511	100.0%		
【降車】									
夕日公園前	12	29	40	43	0	124	24.3%		
夕日ヶ浦木津温泉駅前	1	12	5	13	0	31	6.1%		
網野駅	7	31	13	25	0	76	14.9%	45.2%	
丹海峰山車庫	8	50	41	54	3	156	30.5%		
マイン前	8	36	41	39	0	124	24.3%	54.8%	
計	36	158	140	174	3	511	100.0%	100.0%	

天橋立手ぶら観光実証事業の効果検証

■手荷物移送及び一時預かりサービス利用状況調査（運送事業者が実施）

- 調査期間
・2024年（令和6年）7月20日～10月27日の土日祝日、11月1日～12月1日の毎日
- 調査結果の概要
・11月以外ほとんど利用者がおらず、特に天橋立駅から橋立地区や伊根のホテルへ、また伊根－天橋立駅への移送サービスの利用は僅かしかない。

表. 手荷物移送及び一時預かりサービスの利用実績

	7月	8月	9月	10月	11月	合計	備考
手荷物預かり	0	4	4	0	47	55	8/31、9/1休止
天橋立ホテル移送	0	0	0	0	2	2	7/20、8/31、9/1休止
伊根観光協会移送	0	0	0	0	11	11	7/20、8/31、9/1休止
伊根→天橋立移送	0	0	0	0	0	0	7/20、8/31、9/1休止
合 計	0	4	4	0	60	68	

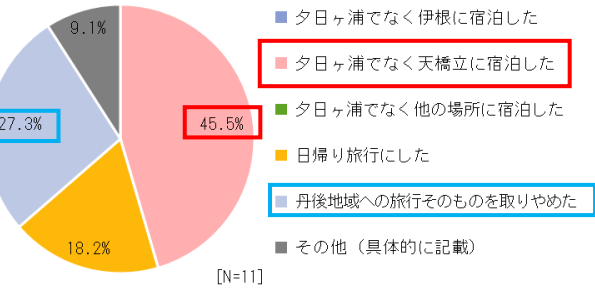


図. バスがなかった場合の宿泊地

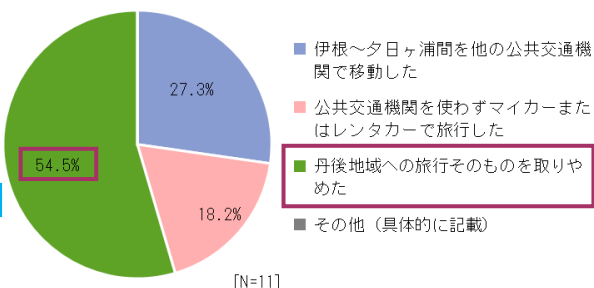


図. バスがなかった場合の移動手段

■伊根－夕日ヶ浦定期観光バス利用者アンケート調査

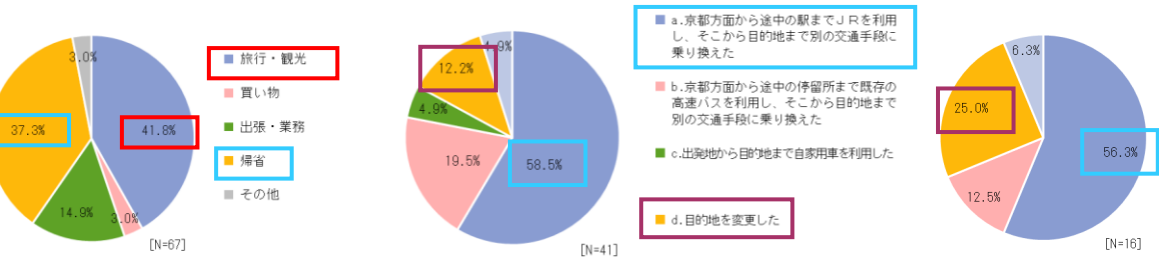
- 調査方法
・バス車内に、利用者We b アンケートのQRコードを掲示。回答者にはインセンティブ提供
- 調査期間
・2024年（令和6年）8月24日～12月1日の土日祝日 計32日64便 ※実証実験期間と同じ
- 回答総数 11件（総利用者数に対する回答率11%）
- 主な設問
・利用者属性や当日の旅行行動（居住地、前日滞在地、宿泊地、利用した便など）
・バスの感想（便数、経由する観光施設や滞在時間、運賃、快適性）
・このバスを何で知ったか、バスがなかった場合の代替交通手段や宿泊地、今後の利用意向など。
- 調査結果の概要
・このバスがなかったら天橋立に宿泊したという回答はあるが、伊根に宿泊したという回答はない。
・このバスがなかったら丹後地域への旅行そのものを取り止めたという回答は多い。

表. 伊根－夕日ヶ浦間定期観光バス実証運行の利用実績

	8月	9月	10月	11月	12月	合計	乗車数／便
伊根発	0	1	10	5	0	16	0.50
夕日ヶ浦発	0	4	4	6	0	14	0.44
合計	0	5	14	11	0	30	0.94

図. 利用目的(両方向)

図. このバスがなかった場合の移動手段（京都発便の場合）
＜左：全ての利用目的 右：旅行・観光及び帰省目的のみ＞



調査結果からみた事業効果の考察と課題

■各事業の評価

- 今回の調査における問題点
・どのアンケート調査も回答率が非常に低く、分析に十分なサンプル数が得られていない。
・現況把握はある程度できたが、施策を行っていない状況と比較できるデータが不十分。
- アンケート回答結果より
・各実証実験を利用した人からの評価は、どの施策も概ね良好であった。
- 各事業に対する評価

実証実験の事業・施策	調査結果に基づく考察、施策の方向性
①伊根町内一方通行社会実験事業	・一方通行を実施した休日においても、観光協会前の道路で渋滞が発生 ・渋滞の主な原因に、狹隘区間に歩行者が多いことによる減速の他、一方通行にも拘らず逆走する車両により狹隘区間客で離合困難となることも影響 ・歩行者への交通マナーの呼びかけや、ドライバーに一方通行を遵守させる運用が必要
②伊根町P＆R事業	・利用者は少なかったが、利用した人の感想は総じて肯定的 ・利用者は伊根に来訪して施策を知っており、利用者を増やすには事前のP R強化が必要 ・利便性を高めるためには、P＆R駐車場のより便利な場所への設置、無料バスの利便性向上等が必要。 ・あわせて、伊根浦地区内の既存駐車場の利用制限も必要
③天橋立伊根交通分散事業	【伊根航路・航路代替直行バス】 ・伊根航路の利用者の評価は非常に高く（景色が良い、バスの混雑を避けられるなど）、単なる移動手段としてだけでなく航路そのものを観光資源として評価 ・一方、ほとんど利用がなかった航路代替直行バスは、周遊観光でなく直行バスとしての機能に特化するなど抜本的見直しが必要 ・事業効果を把握するには、路線バス本来の利用者である沿線住民の声の把握が不可欠 【京都－夕日ヶ浦高速バス・伊根－夕日ヶ浦定期観光バス】 ・どちらのバスも、利用した人からは概ね高評価 ・高速バスは観光客と帰省客の利用が主であるが、既存の高速バスからの転換だけでなく、J R山陰本線の駅でJ Rとマイカーを乗り継いでいたとみられる人の転換も多い ・観光バスの存在が丹後地域への集客に少なからず貢献しているが、伊根に集中する宿泊客を夕日ヶ浦に分散させるという本来の目的は果たせておらず、宿泊の分散を促すようP Rを強化し利用促進を図ることが必要
④天橋立手ぶら観光実証事業	・利用者は非常に少ないが、一定の利用者があった手荷物預かりは、天橋立駅の既存コインロッカーの改善・充実でも対応可能 ・事業を継続するなら、施策そのもののP R強化とともに、荷物の削減により観光客の快適性が向上することなど、モラル向上意識の啓発も必要

■次年度に向けた課題

- 本年度利用実績を踏まえ、各種事業におけるより効果的な具体施策の検討。
- 適切な時期、方法での効果把握調査の実施。
- 利用者アンケートの回答率の向上。特にバスや船の乗客から多くの回答を得るためのアンケート実施告知の方法について、運行事業者の協力を得て再検討が必要。
- インバウンドの来訪状況を考慮した調査票の用意。特に多い台湾からのインバウンドへの対応。
- 施策の利用者だけでなく、例えば宿泊施設や地域住民など、オーバーツーリズム抑制の恩恵を受ける主体を対象とした意見把握やデータ収集の実施。
- 施策の利用促進に向けたP Rにおいては、来訪者にとってメリットある施策であるという理解を深めるとともに、来訪者にオーバーツーリズムに対する問題意識の醸成を促すことも重要。